

まちづくりコーディネーターの活動状況について (8月21日現在)

1 活動報告

《令和6年度実績（1月21日 第2回まちづくりん部会以降） 2件》

関係先	内容	人数
市	①2/28 ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：アートと共生社会を繋ぐ～子どもKARIYA場（BA）～	2
	②3/29 ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：刈谷ハイウェイオアシス「マジックショー」	2
合計		4

《令和7年度実績 4件》

関係先	内容	人数
自治会	①6/24 刈谷市自治連合会勉強会【新規】 地域ヒアリングの結果等（小山自治会恩田4組、東刈谷自治会、築地自治会の取組事例）の共有	3
	②8/5 自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会【新規】 「アジア・アジアパラ競技大会における地域の関わり方」をテーマとしたグループワークのテーブルファシリテーション	6
市	③8/4 「共存・協働のまちづくり講座」（市民協働課）【定例】 グループワークに市民役として参加	6
その他団体	④4/27 実行委員会のファシリテーション（ワールド・スマイル・ガーデンツ木）【定例】	2
合計		17

※8/11 中高生のためのボランティア入門講座（まちくらぶ自主活動）

学生が刈谷のまちづくりに参画するための一助となるよう、夏休み中の中高生を対象に講座を開催した。

《令和7年度予定 2件》

関係先	内容	人数
大学	①11/22 地域連携フォーラム2025（愛知教育大学）【新規】 座談会でのテーブルファシリテーション	6
その他団体	②8/23 一里山福祉委員会座談会のファシリテーション（刈谷市社会福祉協議会）【新規】	2
合計		8

2 まちコ交流会

(1) 第1回【詳細：資料1-2参照】

日 時：令和7年5月24日（土）13：30～17：00

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ11人、元まちコ・つなぎの学び舎修了生5人、一般6人（市民活動団体、学生ほか）、世話人2人、市まちづくり推進課1人

計25人

内 容：第1部 まちとまちコの交流

第2部 みんなで住みたいまちを話し合う

(2) 第2回

日 程：令和7年冬頃開催予定

内 容：まちコ活動収穫祭

3 つなぎの学び舎

(1) まちづくりコーディネーター養成講座【詳細は資料1-3参照】

今年度は7月～2月の全7回講座。受講生は21人。

・第1回 7月5日（土）「まちづくりの想い、聴いて語ろう」

刈谷市民ボランティア活動センター長の米田正寛さん、まちコ1期生の小森義史さん、3期生の久保田富士子さんをゲストに招き、「つながりづくり」の大切さを学んだ。

・第2回 8月2日（土）「話し合いの「ファシリテーション」とは」

フリーランスファシリテーターの稻葉久之さんを講師に、実際に体験を交えながらファシリテーションの心構えや基本スキルを学んだ。

・第3回 9月6日（土）「まちづくり活動の現場から学ぼう」

・第4回 10月4日（土）「まちづくり活動の企画をたてよう」

・第5回 11月1日（土）「話し合いの「場づくり」とは」

・第6回 12月6日（土）「つながりたい！広報の仕方を考える」

・第7回 2月7日（土）「わたし発のまちづくりを提案しよう」

(2) まちづくりステップアップ講座【詳細は資料1-4参照】

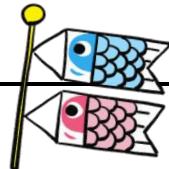
既に「まちづくり活動をしている人（まちコ含む）」が実践に役立つ力を高

めるための講座。今年度は6月、2月の全2回で、単発参加可能。

- ・第1回 6月8日（日）「共感や協力を得る方法」

（特）ボラみみより情報局代表の織田元樹さんを講師に、仲間と資金を募るための広報・運営の仕方について学んだ。参加者13人（うち、まちコ5人）。

- ・第2回【まちコ限定】2月21日（土）「企画会議 会議のデザイン、場づくりの準備～まちコ企画をやろう！～」



まちとまちコの交流会

●日 時 2025年5月24日(土)13:30~17:00

●会 場 刈谷市民ボランティア活動センター

●参加者 25名(まちコ・世話人13名、つなぎの学び舎卒業生・元まちコ5名、一般7名)

●進 行 全 体:桑畠忠則さん

第1部:岡由香さん、

第2部:水鳥幸子さん、松浦章子さん

●タイムキープ 原 保宏さん

●アイスブレイク 鈴木 小枝さん

●ねらい

・まちコの歩みを振り返り、つなぎの学び舎(まなびや)卒業生の活動事例からまちづくりについて改めて考える

・私が住みたいまちについて意見交換をし、取り組みたいテーマを見出す

●プログラム

第1部 まちとまちコの交流

第2部 みんなで住みたいまちを話し合う

●発 表 世話人 大野裕史さん

つなぎの学び舎卒業生

山脇鮎美さん、久保田富士子さん、小島美花さん

まちコ 桑畠忠則さん、鈴木勉さん、石田彰宏さん

■開会あいさつ (刈谷市 市民協働課 遠藤)

・本日の交流会は、まちづくりコーディネーター(通称:まちコ)の皆さんのが内容を企画し打合せを重ねてきたものです。大きく2つの目的で開催します。

1)つなぎの学び舎卒業生同士の交流と、2)市民の皆さんにまちコを知っていたり、つながるきっかけを提供することです。久しぶりの再会や新しいつながりを楽しんでいただき、ご参加の皆さんにとって、今後の活動につながる場となることを願っております。



1. 第1部 まちとまちコの交流



■アイスブレイク(鈴木小枝さん)

・「最近楽しかったこと・うれしかったこと・大笑いしたこと」をグループ内で自己紹介と共に話し合いました。

■交流会の趣旨説明 (進行:岡由香さん)



・本日の交流会では、まちコの活動をはじめとするまちづくり活動のあゆみをふりかえり、発表事例をふまえて、まちづくりについて意見交換します。これから先を見据えて皆さんにそれぞれ活動したいテーマを見出しがが目的です。

・第1部では、まちコの成り立ちとこれまでの活動の変遷の紹介、つなぎの学び舎卒業生の活動発表の後、グループで発表内容について意見交換します。

■つなぎの学び舎・まちコ活動の変遷 (大野裕史さん)



・まちコ活動の変遷には、3つのステップがあります。第1ステップは、2007年「刈谷市市民と行政との共存・協働推進検討委員会」が設置され、2009年に「刈谷市共存・協働のまちづくり推進基本方針」策定されたことにより、刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会が立ち上がりました。そして、2010年にまちづくりコーディネーター登録制度が始まり、2011年にまちづくりコーディネーターを養成する「つなぎの学び舎」が開始されました。当初は2年間受講するカリキュラムでした。

2014年に自治会を対象とした補助金「元気な地域応援交付金」が開始されました。補助金では、住民会議を行うことが条件となっています。住民会議を行う理由として、トップダウンではなくその地域に住む住民の様々な意見を取り入れてもらうためです。住民会議ではファシリテーターという役割を設け、まちコがその役割を担い

活躍する場となりました。他市にもまちづくりに関する講座はありますが、活躍の場を設けられていることは全国的に珍しい制度です。

・第2ステップは、2018年にまちコをサポートする役割として世話人制度を設け、3人の世話人が活動を開始しました。年2回ほど、会議を開催したり、まちコ相談会として相談する場も設けていました。住民会議のファシリテーター以外に、夢ファンドのレポート作成活動も始まりました。3人の世話人は、ゼミ活動を開始しスキルアップにつなげました。

・第3ステップでは、刈谷市の公園づくりを検討する会議など各種委員会へまちコの参加が広がりました。2023年にはまちコ自ら企画運営する「まちコくらぶ」が立ち上がりました。自分たちで何かできないかと話し合う場です。まちコが独立してまちづくりに携わるようになりました。これからもスキルアップしていき、刈谷市のまちづくりに積極的に参画できるように、まちづくりの楽しさを伝えられるようになりたいと思っています。

■つなぎの学び舎卒業生による活動事例発表

くまのらくいち：山脇鮎美さん（7期生）



・つなぎの学び舎を受講した理由は、「まちづくりコーディネーター」という名称がカッコイイ！と思い、自分もなりたいという気持ちから参加しました。「くまのらくいち」は、子どもの居場所です。刈谷市は、子育てに手厚く住みやすい街を感じているものの、小学生の子どもたちだけで遊ぶことができる場所を探していました。また、子どもたちに様々な経験をさせたいという思いから活動を始めました。

・毎月第2日曜日に熊野神社にて、子どもたちが主役となり駄菓子屋を行っています。参加は自由です。子どもが売り手、買い手になるだけでなく、「歴史bingo大会」という企画も行っています。活動拠点以外では、地域の夏祭りや文化展にも出店しました。神社という場所のため、どなたでも参加していただけます。お手伝い募集しておりますので、ぜひご参加ください。

【Q&A】

Q: 神社以外にも、出店していますか？

A: 活動拠点は熊野神社ですが、刈谷市内の子どもたちが行ける場所で出店しています。

卒業後の活動：久保田富士子さん（3期生）



・まちコ、文化工房かりや、朗読グループにて活動を行っています。つなぎの学び舎では、自分の想いを語る、共感を得るために企画書を作成する、次につなげるためにふりかえりをすることを学びました。この学びから、やりたい想いを実行できるようになりました。

・まちコの活動では、ファシリテーターとして「ワールド・スマイル・ガーデンツ木実行委員会」に参加しました。また、文化工房かりやでは、地域社会への貢献を目的に活動を行っています。現在「もうひとりの私の History」の企画・運営に奮闘中です。朗読グループ活動は、朗読技術向上と子どもたちに五感をくすぐる体験を、という思いで立ち上げ、他団体とコラボして複数のイベントを実施しています。現在進行形の活動はたくさんあります。皆さんと共に新しい活動につながると良いな、と思っています。

【Q&A】

Q:これまでの活動で何が一番印象に残っていますか？

A: 一緒に活動してくれるメンバーが、「やりたい」という気持ちを手伝ってくれるところです。この輪が広がっていくことで、楽しさが2~30年は続くと思っています。つなぎの学び舎を受講したこと、今の楽しい活動につながっています。まだまだ勉強不足のところもありますが、みなさんと共に歩んでいきたいと思っています。

「24年度男女共同参画人材育成セミナー」活動内容・所感の報告：

小島美花さん(7期生)

- ・2024年度「男女共同参画人材育成セミナー」に参加してきました。セミナーでは、講義の受講と、グループで「壁をうちやぶれ!~『小』の壁』と放課後児童クラブ~」をテーマにレポートを提出しました。
- ・セミナーには、様々な世代が参加していました。一番驚いたのは、自身はこれまでに男女の評価の差を感じたことはありませんでしたが、そのことに親世代の方はとても驚いていたことです。先人が声を上げたことで、変わってきたのだと感じました。正しく問題点を捉え、積み重ねて議論をしていきたいと思いました。



【Q&A】

Q:男女共同参画に興味を持ったきっかけは何ですか？

A:男女共同参画では、キャリアのことについて話をすることが多いように感じています。将来、自分が子どもを育てながら働くことを考えた際に、何か新しい方法や考えが得られないかと思い参加しました。

Q:このテーマを基に、まちコとしてどのように伝える、取り組みたいと思っていますか？

A:どのように関わられるのかは考えている最中ですが、なかなか難しいと思っています。大きなテーマであり、自身のまちづくり活動とどのように絡めて考えれば良いか答えはまだ出ていません。今日、そのヒントが得られればと思っています。

Q:放課後児童クラブでは、実際に人員が不足しています。解決するために、何か考えはありますか？

A:人員不足をどのように解決すれば良いのかは、まだ答えは出ていません。

■活動事例発表を聞き、感想共有と意見交換

- ・グループの中で、事例発表の感想共有と意見交換を行いました。



2. 第2部 みんなで住みたいまちを話し合う

■私が住みたいまちに向けて、意見交換&ワーク

(進行:松浦章子さん、水鳥幸子さん)

- ・第1部では、まちコの活動、つなぎの学び舎卒業生による活動報告いただき、自分たちでできることを考えるきっかけとなりました。第2部では、「わたしの住みたいまち」について、自分が取り組みたいことを具体的に考えていきます。



■まちコの活動事例発表

「築地自治会長を重責から解放せよ!」:桑畠忠則さん(まちコ5期生)【市からの派遣活動】



・2024年夏に、築地自治会長より「役員は実務の指示をしないと動けない」「自治会長は兼務が多くて大変」と市民協働課に相談がありました。その悩みを受け、まちコと市民協働課を交え、課題を整理しました。整理する中で、自治会長の仕事が多い、役員は自治会長に頼りすぎているという課題が見つかりました。自治会長としては、次年度から新体制に移行したいという意向もあり、役職を整理することにしました。将来ありたい姿を決めること、話し合いのゴールを設定して

進めていくことにしました。

- ・12月に役員会に参加してみると、伺いと指示が多いような様子が見受けられました。また、他自治会の事例を紹介することで新しい視点が見えるのではないかと考え、重原自治会長を招きお話をしてもらいました。役員の皆さんは積極的な発言が多く、想いを持った意見が多かったことが印象的でした。このような様子から、考え方が変われば取り組み姿勢は変わるとと思いました。
- ・複数回の話し合いの場を経て、体制が見直されました。役員に任せて実践していくことで、一人ひとりの力が芽吹くと感じました。今回関わったまちコからの提案としては、①強みと弱みを知り、得意と自慢と「なんとかしたい」を整理すること、②他を知ることとして、役員会を相互に参観すること、③年1回自慢大会を失敗事例も交えて行うと良いと考えました。お互いに良いとこ取りをして、自分たちの自治会に活かしてもらいたいと思っています。
- ・自治会長の悩みに関しては、良くなる兆しは垣間見えました。後継者は、合議制で選ぶ方法に変わるようにです。また、役員に姿勢の変化が見えました。変わる、変えるチャレンジマインドは大事であり、まちコの活動を広げるキーワードになると思いました。

【築地自治会長 古荘さんより】

- ・まちコの派遣により、士気が上がったためか毎週組長会を行っています。それぞれが責任を持つようになりました。イベントでも、役員が責任感を持ちやる気が出てきて嬉しく思っています。ありがとうございました。

「重原地区を元気にしたい」:鈴木勉さん(まちコ7期生)【まちコの個人活動】



・つなぎの学び舎受講のきっかけは、自治会活動に何か役立つかもしれないと思ったからです。今回のテーマである「重原を元気にしたい」は、重原が大好きだからです。地区に活気がないと感じた理由は、コロナ禍が明けても地域活動が以前のように戻らないことからそのように感じました。保護司の活動を通して、孤独・孤立や引きこもり、子どもに対する課題は地域の活動が戻らないことにより悪化するのではないかと懸念しています。

・地域活動を活性化するために、家から出かけよう、人と会う居場所を作ろうと思いました。特に「おひとりさま」に対して支援していきたいと思い、サークル活動を行うことで孤独・孤立の防止につながればと考えました。刈谷市の「元気な地域応援交付金」を使って、健康マージャンやボッチャなどの「重原げんきづくりサークル活動」を開始しました。ですが、サークル活動を継続することに対して課題があります。

- ・健康マージャンでは、毎回休まず楽しみに参加している人も多くいます。健康マージャンが上手くいっている理由としては、リーダーが教える側になることや新しい企画を立てることに専念していることが挙げられます。活動が継続する理由として、リーダーの人柄や根気、知恵もありますが、コミュニケーションがとれていることは大きな要因です。コミュニケーションができる地域は、災害時にも強い地域だと思っています。

「燎で学生とコラボ」:石田彰宏さん(まちコ6期生)【まちこくらぶ自主活動】



・自身は、コロナ禍にて、何かしたいと思いつなぎの学び舎を受講しました。燎は、2024年11月に刈谷駅北口で行われたストリートイベントです。出展団体は、飲食は無く、すべて体験型のブースでした。当日は、まちこくらぶとして出展し10名ほど参加していただきました。出展してみた感想として、これまでにはなかった刈谷市内でアートや文化に触れるイベントができたこと、今回は高校生や20代など若い世代が企画運営を行っており、普段行われている地域のイベントとは違う文化祭の雰囲気を感じられました。

- ・若者がまちづくりに関わることが当たり前になる刈谷市にしたいと思っています。子どもたちが刈谷を好きで何かしたいという思いを持つこと、行動を起こすようになることが理想ですが、学生はとても忙しいです。その解決方法として、まちづくりを部活動としたいと考えました。今後、部活動の地域移行が進んだ際に、その一つになれると思っています。中高生が参加しやすいコンテンツを現在考え中です。

■みんなで住みたいまちを話し合う

A3用紙ワークシート「わたしの住みたいまち」「そのために、今わたしができること・したいこと」を一人一枚ずつ記入します。ワークシートについてグループの中で意見交換し、ブラッシュアップした後、全体で一人ずつ発表しました。

わたしの住みたいまち	そのために、今わたしができること・したいこと
何でも挑戦できるまち 何かがしたい!!って思ったときに、できる場所を提供してもらえる+一緒にやってくれる人がいる	誰かの(と)最初の一歩を踏み出してみる!(一緒に)
いやし合える 家族のようなまち	双方でいやし合い 子どもたち向けの読み聞かせ、語り 子どもたちが年長者に読み聞かせ、語りができる場を作りたい
自然の残る(今ある地形を生かす)あえて人口自然を作る。そこに老若男女が集まってショッピング、余暇を楽しむことができる。	広大なスペースを探す 自分の想いを人に話し続けていく 根性雑草たくましい→アスファルトも崩す強力
住民・施設・組織に壁がないまち	まちコとして地区の伴走者(つなぎ人)になりたい
ピラミッド階級のないまち(みんな違ってみんないいんだよ!)	まちに関わりたい人が手を挙げられるようにしたい。秘めた才能とポテンシャルを持った人はたくさん居るはずです
防災に強い町 要否確認が当たり前にできる町	「自治会の各々な活動の活性化」の手助け 若返り、特に大役・役員さんの新陳代謝への誘導
「まちに住む人が、住んでてよかった!!と心から思えるまち」	・お祭りとか皆が集まる行事にお願いして声を聞く、募集 ・回覧板 課題発見＆仲間あつめ
車の運転しなくとも暮らせる町	近くのお店を利用して永く営業してもらう
市・マチへのなんとかしたい思いが、市政に伝わり、“好き”“得意”“やりたい”が具体化でき、それぞれの市民がうきうき、わくわくする満足感以上、幸福感が味わえる	刈谷日々新聞 YouTube チャンネル(民間からの情報発信、情報インフラのアップグレード、SNS)
明るく、楽しく、笑顔でおしゃべりできる、仲間作りをする	なごみの場を作る 楽しいイベントを考える
誰もが笑顔になれるまち	みんなが楽しめるイベントをやる!!
向こう3軒両隣的コミュニケーションがあるまち	外に出る、出会う人と声をかける、ほめる等かんたんにできることから。 まずは自治区の活動に参加「多世代交流」
向こう三軒両どなりが顔のみえる関係 →暮らし心地・住み心地→明るい住みよいまちになる	自分のまちのまちづくりに参加する →できることをやる(でも楽しく) →いつの間にか知り合いが増える →楽しくなる
若者がまちづくりに関わることが当たり前のまち	・ボランティア講座をつくる ・学校の地域活動を知る
人に自慢できるまち	先ほどの事例発表であった自治会の運営の仕組みを良い方向に変えるお手伝いをしたい。
人情、親しみ、優しさ、愛情のある町	友人、知人をたくさんにする。いろいろな場へ出かける。地区活動に積極的に参加する。
通りすがりの見知らぬ人にも『こんにちは』とあ	まず自分が知らない人にもあいさつする

いさつができるまち	知らない人にもいさつしようという回覧を出す(ポスターも) 地区の役員さんにも実践をお願いする 地区の班長さんにも実践をお願いする
若者とお年寄りが気軽に交流できる町	まずは、いさつ!!
街中でいさつ(声かけ)出来て、茶飲み知人!	自分から「元気?」「いってらっしゃい」と近隣住民に会ったら声をかける



■全体交流

- ・発表したワークシートの内容をもとに、自由に意見交換・交流しました。



■今後について(桑畠さん)

- ・これから取り組みたいことについて、良い意見がたくさん出ました。第2回交流会では、「こんなことに取り組んだよ」という話を披露していただけるとありがたいです。一つでも実践して取り組んでいただけると嬉しいです。



■チェックアウト(鈴木小枝さん)

- ・一人30秒で今の気持ち、今日の感想、感じしたことなどをテーブルの仲間同士で共有しました。

■まちこくらぶPR(安部真さん)



- ・第3土曜15時～17時、刈谷市民ボランティア活動センターにて、困り事を聞いて解決の方法と一緒に考える「まちこくらぶカフェ」を開催。みんなの好きや得意、やりたいことを実現してまちづくりに取り組んでいます。本日の事例発表の方が参加する日程もありますので、さらに話を聞きたい方はご参加いただき、一緒にまちづくりを進めていきましょう。

■閉会(刈谷市 市民協働課 加藤)



- ・まちコ養成講座「つなぎの学び舎」を6月16日まで申込受付中です。定員に余裕がある場合は単発の参加も受け付けます。まちづくりステップアップ講座もご参加ください。
- ・刈谷やまちづくりに対する想いを聞かせていただき、刺激を受けました。参加の皆さんにとっても新たな発見や再確認できたこと等、一つでも得るものがあり、第2回にむけて進歩報告を聞けること楽しみにしています。
- ・市民協働課では地域支援も担当しており、築地自治会の事例は自治会関係者の勉強会で事例として報告します。「うちの自治会でもやりたい」と手が挙がって、まちコさんの活動に拡がり、ワインワイ

ンとなることを期待します。これからも自分の立場でできることに取り組んでいきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。



参加者 募集中!

つなぎの学び舎

令和7年度
第8期

「つながる」コツを
学ぶと、活動って
元気になるね！

まちづくり
活動する人を
応援したい！

地域の活動が
もっと活発に
なったらしいな！

まちづくりは、
「一人の20歩」より、「20人の一歩」
の方が効果も楽しさもアップします！

そのための上手な話し合いの仕方や魅力的な企画づくりって、慣れてないしよくわからない…と感じていませんか？

そんな方にピッタリなのが「つなぎの学び舎」です。地域活動・PTA・ボランティア・NPO活動など、刈谷のひとやまちを元気にしたいと思っている人が集まって、学び＆語り＆交流を深めながら、「さまざまな人＆団体とつながる力」を育んでいける講座です。

募集要項

開催期間	令和7年7月5日(土)～令和8年2月7日(土)まで／全7回
開催場所	刈谷市民ボランティア活動センター 談話スペース（刈谷市東陽町1-32-2）
対象者	刈谷市で自治会・女性の会・子ども会・公民館活動といった地域活動や、ボランティア・NPO活動など、まちづくり活動をしている人。これから活動を始めたい人も歓迎です！
定員	20名程度
参加費	無料
修了の要件	<ul style="list-style-type: none"> 原則4回以上の出席（全7回）と企画書の提出を要件として、修了証を授与します。 修了された方には、「認定つなぎびと」として「まちづくりコーディネーター」へ登録し、まちづくり活性化に向けて活躍していただくことを期待しています。 <p>※詳しくは、刈谷市ホームページ「まちづくりコーディネーター登録者募集！」をご覧ください。 https://www.city.kariya.lg.jp/kurashi/shiminkyodo/kyoson/1004028/1004030.html</p>
応募方法	<ul style="list-style-type: none"> 申込用紙内のQRコードまたは、申込用紙に必要事項を記入して、郵送、FAX、メールもしくは直接、刈谷市市民協働課へお申込みください。 申込用紙は、刈谷市民ボランティア活動センター、各市民センターなど公共施設で配布しているほか、刈谷市ホームページからもダウンロードできます。 申込期間終了後、書類選考を行い、その結果を全員にご連絡いたします。（6月下旬予定）
応募締切	令和7年6月16日(月)必着

「つなぎの学び舎」は、こんな講座です。



① 楽しくって、具体的

さまざまな人・団体とつながりをつくる上で基本になる「話を引き出す」「企画する」「情報を伝える」といった役立つ技術が学べます。

講師やゲストは、まちづくりの実践者です。具体的な経験に基づいて学べます。また、講義を聞くだけでなく、グループで話し合ったり、自分の経験を振り返ったり、地域のNPO・地縁組織からお話を聞いたり…。そんな体験を含んだ学びを通して、これから活動のヒントや目標が自然に見えてきます。



② 仲間や応援者に、出会える

これまで、老若男女はもとより、地域の役員、スポーツやパソコン等の指導者、防災や子育て等のNPO・ボランティア活動のメンバー等、多彩な活動者が参加しています。普段とは異なる人の輪が広がります！

つなぎの学び舎の先輩方とお話する機会もあります。さまざまな人との出会いや参加者同士のつながりによって「参加者や担い手集めで困った時、応援してくれた」という声もよく聞かれます。



③ プランづくりで、夢を形に！

最終回では、「こんなことをやってみたい！」という想いをプランにして発表します。新たな企画でも、今までの活動に（少しだけ）工夫を加えた内容でもOKです。

プランをつくることで、実現に一歩近づくことができます。

④ 自分にも、他者にも活かせる

これまでのつなぎの学び舎 修了生は、自身で発表したプランに取り組んでいたり、学び舎でのご縁から他の活動の協力に回ったり、自分の知り合いに声をかけてつながりづくりに一役買ったりと、大小問わず、学んだことを様々な形で活かしています。



〈過去の受講者が発表したプランの一例〉

- ★ウキウキワクワク元気、笑顔、希望あふれる刈谷まちづくり
☆年は取ったがまだまだイケル！余生はボランティア活動
- ★外国人も一緒にやろう避難訓練、みんなで助け合おう地域の輪
☆ルールはだれのため（ゴミ集積所の管理）
- ★世代を越え地域活動の楽しさを伝え、人の輪を広げる
☆遊びながら学ぼうさい「誰もが防災士のたまご」
～防災は日常の応用～
- ★こども同士、保護者同士のゆるいつながりづくり『こどものまち』
☆ヤングケアラーの今を知る～あなたが繋ぐ支援の糸～

まちづくりコーディネーターとは？

まちづくりコーディネーター（通称：まちコ）は、刈谷市民の誰もがいきいきと輝いて暮らせるまちにしていくためのお世話役です。
「まちづくりを“他人ごと”にせず、“自分ごと”として取り組む人を刈谷で広げる工夫をしていくひと」「地域活動やボランティア・NPO活動等を行っている団体同士、また、企業や大学等とのつながりづくりをサポートするひと」です。刈谷市では、そんな「つなぎびと」となって、魅力的なまちづくりを進めていきたい人たちが出会い、学びあう「つなぎの学び舎」を実施しています。

詳しくは、QRコードからご覧ください。
※QRコードは、デンソーウェーブの登録商標です。



<https://www.city.kariya.lg.jp/kurashi/shiminkyodo/kyoson/1004028/index.html>

講座内容

まちづくり活動の企画や運営の仕方、話し合いにおけるファシリテーションなど、地域の会議や行事の開催といった様々な機会に活かせるスキルを楽しく学びます。

【第1回】まちづくりの想い、聴いて語ろう

7月5日(土) 13:30~16:45

刈谷でまちづくりを実践している、まちづくりコーディネーターなどから、「つながりづくり」の大切さを学びます。その後、受講者同士が知り合い、各自が取り組んでいること／こんなことやれたらいいなと思う夢をざくばらんに語り合います。

【第2回】話し合いの「ファシリテーション」とは

8月2日(土) 13:30~16:45

まちづくりでは、一人ひとりのつぶやきを組み合わせてグループの合意を醸成する話し合いが大切です。体験を通して、ファシリテーションの心構えや基本スキルを学びます。

【第3回】まちづくり活動の現場から学ぼう

9月6日(土) 13:30~16:45

暮らしやすいまちづくりを担う「自治会・公民館活動」、新しい社会課題に取り組む「NPO・ボランティア活動」など現場のお話を伺い、まちづくりの喜び・苦労について学びます。

【第4回】まちづくり活動の企画をたてよう

10月4日(土) 13:30~16:45

自分のやりたい活動が、地域に必要とされる活動になり、みんなが楽しく参加できる活動にするため、まちづくり活動の企画のコツを学び、自分が関わっている(関わりたい)活動の魅力アップを考えます。

【第5回】話し合いの「場づくり」とは

11月1日(土) 13:30~16:45

講義や一方的な情報提供にとどまらず、参加者がより学びを深め、創造的に話し合える「場づくり」とは何か、どんな手法が使えるのか、また、第7回企画発表に向けたプレゼン手法(KP法)も学びます。

【第6回】つながりたい！広報の仕方を考える

12月6日(土) 13:30~16:45

企画した活動への参加者募集やボランティア募集など、伝えたい人々に伝わるための広報の仕方を考えます。

【実習】企画書作成、発表準備

講座での学びを活かして、自らが関心ある身近な出来事や課題解決のためのまちづくり活動、または話し合いの場づくりを企画立案し、最終回に発表します。企画書を作成する上で、参考となる事例の調査(インターネットや市民ボランティア活動センター等を活用)を課題とします。

【第7回】わたし発のまちづくりを提案しよう

2月7日(土) 13:30~16:45

講座での学びや仲間との出会いを活かして、自ら取り組んでいる／取り組みたいまちづくり活動、または話し合いの場づくりの企画案をまとめ、発表します。そして、今後は「つなぎひと」としてどう行動していくか宣言します。

講師紹介



第1回講師

こめだ まさひろ

米田 正寛さん

刈谷市民ボランティア活動センター
センター長



40歳の時阪神淡路大震災が発生し、3日後に単独で現地へ。東日本大震災では、次男とともに被災家屋復旧活動を行う。2016年の熊本地震の避難所でNPO法人愛知ネットと活動とともにし、2ヶ月後に愛知ネットの職員となる。現在は、刈谷市民ボランティア活動センターで働くと共に、「米こめ俱楽部」や「どろん子道場」「輪～るど・ビレッジ小垣江」の代表を務める。

第4回講師

いけだ てつや

池田 哲也さん

(一社)地域問題研究所
事業部長



1999年に(社)地域問題研究所に入所し、地域コミュニティの活性化や参加型まちづくり、地域福祉、子育て支援などの調査・研究に携わる。近年は、名古屋市や愛知県などの老人クラブ連合会の研修や方針づくり、子ども会活動の活性化、東三河における歴史や環境美化をテーマにした関係人口創出なども支援している。自身も愛知県岩倉市にて、市民活動団体の代表として町内会活性化の取組を実践中。

第6回講師

おだ もとき

織田 元樹さん

(特非)ボラみみより情報局
代表



1999年7月「ボラみみより情報局」を設立。ボランティア情報誌「ボラみみ」を1万部発行し地域のスーパー・書店など700箇所で無料配布。物資寄贈、広報物を制作、イベント・研修、相談など、ボランティアやNPOに関わる事業を展開。

全体ファシリテーター

第2回、第5回講師

いなは ひさゆき

稻葉 久之さん

フリーランスファシリテーター



大学で国際開発学を学び、青年海外協力隊、NGOなどアフリカで5年間活動。その後、国内まちづくりNPOや地方創生事業に従事し、2017年からフリーランス・ファシリテーターとして活動。大学の非常勤講師(愛知淑徳大学、金城学院大学、日本福祉大学、南山大学、名古屋市立大学)、(特活)アイキャン理事。

会場(全回共通)

刈谷市民ボランティア活動センター
談話スペース (刈谷市東陽町1-32-2)

受講者の声

これまでに「つなぎの学び舎」を受講した人は、延べ**188名**！受講者とまちづくりコーディネーターの派遣を依頼した方の声を紹介します。



松尾 友美さん

第2期修了生／まちコ活動歴10年

一番印象深かった講座は、企画書づくりです。仕事以外に活動をしていない中で、企画書どのように書こうかと思っていました。ですが、写真の撮影方法を学んだことを活かして書くことができました。また、まちづくり活動に参加するようになった際に、企画書づくりで学んだ方法から自分の考えを整理できるようになりました。



桑畠 忠則さん

第5期修了生／まちコ活動歴4年

つなぎの学び舎は、仲間との出会いの場です。「まちづくり」「つなぎ」というキーワードが気になって参加しましたが、同じような志を持つ人が集まる場だと思います。講座だけではなく今後の活動でもご縁のある仲間の輪が広がる場でした。



岡 由香さん

第3期修了生／まちコ活動歴8年

スキルだけではなく、人との関わり方も学びました。学校や会社などではない、「なにかしたい」と思う気持ちで集まる場では技量や熱量が必要であることを学びました。先輩のまちコなどの協力を得て受講する中で、「自分から動かなければ何も変わらない!」という思いに変わり、自分の努力が形になったことで達成感を味わいました。



飯島 明子さん

第6期修了生／まちコ活動歴2年

つなぎの学び舎では、みんなで考えたり、自分の考えを発表することで、自分は何がやりたいのか整理できました。その上で、周りの支えやチームワークが大切なことにも気付けました。これからは、学んだことを活かして、人をつないだり、支えられる人になりたいと思っています。

まちづくりコーディネーター 派遣依頼者の声



鈴木 勉さん

第7期修了生
重原自治会長、保護司、防災士

「元気な地域応援交付金」を活用する際に、住民会議にまちコさんをファシリテーターとして派遣していただきました。住民会議を通して、まちコさんは、皆さんの意見を引き出し、自分以外の意見も聞き、みんなで答えを出すために手助けを行う人だと体感しました。

それをきっかけに「つなぎの学び舎」を受講し、今では重原地区を拠点に、まちコの実践として大好きな重原地区等で活動を行っています。



岡本 真幸さん

元 小山自治会長

コロナ禍をきっかけに、各地域の問題点についてアンケートを実施した結果、どの地域も似たような課題・問題を抱えていることがわかり、それらを解決する手助けとして、まちコさんの派遣を市民協働課へ依頼しました。まちコさんには、マンダラートを活用して地域の問題を一緒に考えるワークショップを行ってもらいました。

ひとつのグループでは、「ゴミステーションが汚い」という問題から、ゴミ出しルールの手順書を作成することができました。まちコさんの協力で、地域の問題を解決するきっかけになりました。参加者からは、「問題解決の手順が分かり易かった」「色々な意見を聞くことができた」「非常に参考になった」等、まちコさんたちに感謝する言葉が多く聞かれました。



ワークショップの様子。まちコさんと一緒に、考えました！

申込・問い合わせ先

刈谷市役所 市民協働課 ☎448-8501 刈谷市東陽町1-1

【TEL】0566-95-0002

【E-mail】kyodo@city.kariya.lg.jp

【FAX】0566-27-9652

【HP】<https://www.city.kariya.lg.jp>

参加費
無料

つなぎの学び舎・リカレンス

まちづくり ステップアップ講座

まちづくりは、「一人の20歩」より、「20人の一歩」の方が効果も楽しさもアップします！

刈谷のひとやまちを元気にしたいと思っている人が集まって、学び&語り&交流を深め、さまざまな人や団体とつながることで、楽しみながら地域の困りごとを解決していく力を育んでいきます。
地域活動・PTA・ボランティア・NPO活動など、まちづくり活動での実践に役立つ力を高める講座です。

【第1回】 共感や協力を得る方法

2025年6月8日(日)
13:30~16:30

刈谷市民ボランティア活動センター
(刈谷市東陽町1-32-2)

NPOやまちづくり活動に欠かせない「人」と「お金」。多様な人から共感を得て、活動のサポートや一緒に運営してくれる仲間を募るために、何をどのように伝えていく必要があるでしょうか？募集の仕方から運営の方法について学びます。

まちコ
限定企画

【第2回】まちコ企画をやろう！

企画会議
会議のデザイン、場づくりの準備

2026年2月21日(土)
9:30~12:30

刈谷市民ボランティア活動センター
(刈谷市東陽町1-32-2)

まちづくりコーディネーター（まちコ）の活動を市民に知ってもらい、まちコと市民が交流を図る場づくりを考えます。「まちコの総会（仮）」の開催を題材に、企画会議を行いながら、場のデザインについて学びます。

※まちコ限定企画は、まちコ登録することで参加可能です。

●対象

刈谷市で自治会・女性の会・子ども会・公民館活動といった地域活動や、ボランティア・NPO活動などのまちづくり活動をしている人

●定員 30名程度

●申込方法

- 裏面のQRコードまたは、申込用紙に必要事項を記入して、郵送、FAX、メールもしくは直接、刈谷市市民協働課へお申込みください。
単発での参加申込も可能です。
- 申込用紙は、刈谷市民ボランティア活動センター、各市民センターなど公共施設で配布しているほか、刈谷市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込期間終了後、書類選考を行い、その結果を全員にご連絡いたします。

まちづくりコーディネーターとは？

まちづくりコーディネーター（通称：まちコ）は、まちにしていくためのお世話役です。「まちづくりむ人を刈谷で広げる工夫をしていくひと」「地域活動やボランティア・NPO活動等を行っている団体同士、また、企業や大学等とのつながりづくりをサポートするひと」です。刈谷市では、そんな「つなぎひと」となって、魅力的なまちづくりを進めていきたい人たちが出会い、学びあう講座を実施しています。

詳しくは、QRコードからご覧ください。
※QRコードは、デンソーウエーブの登録商標です。



講師紹介



第1回講師

おだ もとき

織田 元樹さん 特定非営利活動法人 ボラみみより情報局 代表

1999年7月「ボラみみより情報局」を設立。ボランティア情報誌「ボラみみ」を1万部発行し地域のスーパー・書店など700箇所で無料配布。物資寄贈、広報物を制作、イベント・研修、相談など、ボランティアやNPOに関わる事業を展開。



全体ファシリテーター・第2回講師

いなば ひさゆき

稲葉 久之さん フリーランスファシリテーター

大学で国際開発学を学び、青年海外協力隊、NGOなどアフリカで5年間活動。その後、国内まちづくりNPOや地方創生事業に従事し、2017年からフリーランス・ファシリテーターとして活動。大学の非常勤講師（愛知淑徳大学、金城学院大学、日本福祉大学、南山大学、名古屋市立大学）、特定非営利活動法人アイキャン理事。

申込用紙

右のQRコードまたは、以下にご記入の上、郵送、ファクス、メール
もしくは直接、刈谷市役所市民協働課までお申し込みください。
まちコ登録をされている方は、★のみご記入ください。



申込締切
5月26日(月)
まで

(ふりがな) ★氏名		生年月日	年 月 日
住 所	〒		
電話番号	日中に連絡が取れる番号を記入してください。 () -		
FAX	() -		
E-mail			
職業			
勤務先/学校名			
★参加動機			
★参加希望講座 ※複数選択可	<input type="checkbox"/> 6月8日(日) 共感や協力を得る方法 <input type="checkbox"/> 2月21日(土) 企画会議～会議のデザイン、場づくりの準備		

申込・問い合わせ先



刈谷市役所 市民協働課

〒448-8501 刈谷市東陽町1-1

【TEL】0566-95-0002

【FAX】0566-27-9652

【E-mail】kyodo@city.kariya.lg.jp

【HP】<https://www.city.kariya.lg.jp>

※この講座は、刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会が方針決定し、NPO法人ボランタリーネイバーズが運営支援をしています。

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【部会の協議方針】

- ・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会等で取り組まれるとよいことについて検討する
- ・課題が具体的になっている地域をモデルに取組を考える

1) 自治会への事例共有（刈谷市自治連合会勉強会）

- ・日時及び会場：令和7年6月24日（火）10時～11時30分 刈谷市役所防災会議室
- ・参加者：23自治会長（1名欠席）
- ・事例発表者：まちづくりコーディネーター 桑畠、小森、鈴木
- ・共有事例：詳細は資料2－2参照

A：小山自治会恩田4組	B：東刈谷自治会	C：築地自治会
・「組単位」のLINE使用で、地域の情報伝達を円滑に →①	・防災イベントで、助け合えるつながりをつくる ・会計業務を整理する、事務員を雇用する ・地域課題（要望）情報提供・改善活動のフローを整理	・次につながる役員体制の構築 →②

2) 関心の高かったテーマについて

①LINEでの電子回覧板

【自治会長の関心事項（会議で出た質問など）】

- ・事務局がマニュアルを持っていれば展開してほしい。
→恩田4組より「LINEでの電子回覧板運用マニュアル（環境構築後）」について提供いただけたため、ほしい自治会に展開中。
- ・現在、小山自治会内で何組が実施しているか？まだ実施していない組は何がネックなのか？
→1組だけが実施。恩田4組は、少ない世帯数・デジタルに精通した役員・若い組員が多い、これらの要素が揃ったことで実施が可能であった。
- ・今川：「自治会単位」で実施しているが、登録者が増えない悩みがある。
- ・一里山：「班単位」で実施しており、料金に関する情報提供あり。

【今後の活性化に向けて】

- ・関心度が高い自治会は、マニュアル展開以降、導入に向けて動き出す可能性あり。

◎まちコの関わりの可能性について；導入に向けた後方支援

- ・導入に関して役員間等で共通イメージを持つための話し合いのサポート
- ・地域内での進め方のアドバイス
- ・デジタル化のサポート

②次期自治会長の決め方

【自治会長の関心事項（会議で出た質問など）】

・「エレベーター方式」から「合議制」へ変更を考えていることについてもっと知りたい。

・合議制とは、どのように決めるのか？

→各行事等に組長・班長が参加しているため、彼らが次期自治会長として相応しいと思う人を選ぶ予定。自薦、他薦は問わない。

【今後の活性化に向けて】

・関心の高いテーマだが、築地自治会のその後の状況を確認した上で、他自治会への展開を考える必要あり。

◎まちコの関わりの可能性について；築地自治会のその後を追跡。

・新体制への移行に関するフォローアップ

（8月2日に1つ事業が終わるため、その後、新体制の実情を確認する「振り返り会」もしくは「アンケート」の実施可能性あり）

・取り組みのうち「次期自治会長の決め方」は他自治会の関心度が高いため、過程を追うことで引き続き他自治会に展開可能な要素を探る。

3) その他

・以下を引き続き募集及び必要に応じて声掛けし、まちコを含む市民活動をする人たちがどのように地域活動に参画したら、地域が抱える様々な課題の解決に役立つか、またよりよい活動につながるのかを検討する。

以下、大募集中！！

1) うちの自治会の取組みについて、ヒアリング来て！を大募集！
→良い感じにまとめて皆さんに共有します 💬

2) 今日の事例のココ！取り組んでみたい！詳しく教えて！を大募集！
→まちコが伴走支援します 💬
(必要に応じて該当自治会に一緒に聞きながら)

3) お困りごと・悩みごとがあれば、お気軽にまちコへ相談してくださいね ❤️
→一緒に考えたら、思ってもみなかった解決方法が見つかるかも？！

小山自治会恩田 4 組へのヒアリング記録

1) ヒアリング日程

日時及び会場：令和 6 年 11 月 30 日（土）19 時～20 時 30 分 小山市民館

対応者：二宮自治会長、前野組長

参加者（敬称略）：【まちコ】桑畠、鈴木（2 名）

※5/25 まちづくりステップアップ講座「ヒアリング、インタビュー技術を学ぶ」受講者

【世話人】大野、【市民協働課】和田、【ボランタリーネイバーズ】三島、遠山

2) ヒアリング結果は、以下のとおり。

テーマ	組単位の LINE 使用で、地域の情報伝達を円滑に	
<p>地域密着型の情報伝達の仕組みである回覧板。隣人と顔を合わせる機会にもなりますが、ライフスタイル等が変化する中で回覧に時間がかかったり、情報が留まらないために後でその内容の確認がとれないといった弱点もありました。</p> <p>組長さんは「デジタル化すればもっと便利になるのでは」と思い調べたところ、LINE を活用している事例を見つけました。組長就任翌月（令和 5 年 5 月）より配信を試みたところ、組内電子回覧率は 1 年間で 8 割超（令和 6 年には 93%）とスムーズに浸透しました。こうしてタイムリーな情報発信で利便性を高める一方、顔合わせの機会の減少を防ぐため、清掃活動を充実する工夫を行っています。</p>		
小山地区 恩田 4 組 基本情報	<p>小山地区は 5,950 世帯（全 24 組）、同地区にある恩田 4 組（全 5 班）は 128 世帯（R6.4.1 時点）。</p> <p>内、自治会加入 28 世帯、準加入*27 世帯。加入 28 世帯の回覧形態は、電子のみ 23 世帯、紙のみ 2 世帯、両方 3 世帯。</p> <p>(*準加入 = アパート管理会社の一括加入で、会費納入はするが運営には携わらない。市民だよりのみの配付で回覧版は回さない）。</p>	なじみやすい 地域のタイプ

ポイント 1 / 紙媒体と並行してさらっと始めた

回覧板について、「次の人に送るためじっくり見ていられない」「手元に来た時に日付が過ぎている」といった問題を感じたことがあったため、どうせ組長をするなら良いことをしたいと考えて、デジタル化に取り組みました。アプリはお金もかかり大変そうと思い、LINE を活用している事例を参考に、早速 5 月から開始することにしました。

自治会長には実施してよいか確認の上、「電子回覧板を始めてみましたが、よかつたらどうですか」という呼びかけを回覧につけて案内しました。組内には特に相談しませんでしたが、お試し的な感覚でさらっと始めたためか、反対はされませんでした。1 年もかかる内に、対象世帯 28 世帯中 24 世帯が、翌年には 26 世帯の登録が進みました（93%）。しばらく抵抗感があった高齢の組員が 2 年目になってお子さんの働きかけで加入され、全て電子版になった班もあります。ただし、紙がよい人は、引き続き紙を選択することができるようになっています。

電子版と紙との併用で、組員が自分で選べるようにしたこと、また小さな組であったことでスムーズに進んだと感じています。

ポイント2 / 電子回覧板の作成・配信は短時間で可能

電子回覧板は月2回の発信（加えて、清掃などのリマインドも行う）で、プロセスは以下の通りです。②表紙づくりの文章作成に少し時間がかかりますが、毎回30分に満たない作業時間で、さほど負担に感じていません。

- ① 回覧物を預かったら、自宅でスキャンを行い、PDFデータにする。
- ② 表紙づくり ◎スマホでも見やすいよう12ポイントの大きな文字にしました
 - (1) 連絡事項（掃除の案内、ゴミ捨てルール等）
 - (2) 回覧資料の目録
- ③表紙も合わせて1つのデータに。
- ④google ドライブにアップ
- ⑤LINE メッセージに配信

恩田4組で作成したLINEでのメニュー



LINE開設について (R6.11.30時点)

- ・LINE公式アカウント無料プランを利用
- ・LINEビジネスID「恩田4組」名義で取得
(人数の多い組は、複数アカウントを持つことで送信数制限もクリアできる)
- ・登録情報は組長が管理
- ・一斉送信200通/月まで無料
- ・通常のLINEメッセージで個別のやりとりも可能。返信が必要な回覧物も対応できる（上記200通に含まれない）
- ・開封状況は確認できる

ポイント3 / 顔を合わせる機会づくりも考慮する

電子回覧板の効果として声があがっているのは、「過去の回覧板を見返すことができる」「自分で写真を撮る必要がなくなった」というものです。恩田4組の年間予定表も意外に好評でした。また、公園清掃の当日雨天中止について、これまで現地に行ってみないと実施か中止か分かりませんでしたが、電子回覧板の運用により、当日朝一斉に中止連絡が可能となった、という例もありました。

一方で、電子化は、隣人同士が顔を合わせる機会が減ることになります。自治会は何のためにあるのかと考えた際、人ととのつながりをつくることはやはり重要と思いました。そこで、LINE配信と合わせて公園清掃を年2回から毎月にし、人と人が会う機会を増やしました。また、側溝の清掃も、道具を取りにきてもらうことにしました。結果的に以前より組員が会うようになり、よく話すようになってきました。

ポイント4 / 組単位LINEの汎用性～引継ぎ・役割分担・地域サイズが鍵～

次の組長にも引き継ぎが可能なようにマニュアルの作成をしています。ただし、誰もが今のやり方で行えるとは限りません。その場合、「PDFにする」「表紙の文章を書く」といった作業を小分けにして複数人で担えると、1人の負担が少なくなったり、協力してくれる人の範囲が広がったりすることも考えられます。

公式LINEの活用範囲は、組単位が管理がしやすいのではないか、と感じています。組長と班長の間でやりとりができるのは便利です。また、LINEメッセージで組員と個別のやりとりができるようになっているため、時折組員から「ゴミのネットが破れている」といった連絡が届く場合もあります。組単位だとそれが良いコミュニケーションになっていますが、多数来た場合対応が追いつきません。こうした運用感覚は、自治会や組の大きさによって異なるかもしれません。

若い世代の自治会運営参加、まずは声かけしてみては…

昨年度から恩田 4 組の組長と小山自治会の会計を担当していますが、会計に声が掛かったのは、年齢が若く、Excel が使えそうだと思われたことだったかもしれません。会社に勤めている年代ですが、「地域のことは誰かがやらなきゃいけないこと」と思っていたので、役を引き受けました。IT やデジタルの専門性が特にあるわけではなく、自分で調べながら進めていきました。

自治会運営に若い人に関わってもらうには、「若いから（引き受けるのは）無理だろう」と固定観念を持たずに、まずは声をかけていくことだと思います。年齢に関わらず、協力的な人はやってくれる可能性はあると思います。

小山自治会恩田 4 組組長



※「令和 6 年度刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会 まちづくりん部会」にて事例の共有をしています。同部会で出た意見は、次のとおりです。

部会での意見 【テーマに関するここと】

- ・地域で新しい取組みを始める時、色々な人に話をしている内に反対意見が出て来たりするものだが、さらっと始めており、スムーズに進めることができている。
- ・回覧を一斉に電子版に変えたわけではなく、1～2 年かけて進めている点がよい。
- ・（電子回覧板によって顔を合わせる機会が減った対策として）公園清掃を増やしたことが負担感を与えないよう「ボランティアなのでお時間のある時に気軽に参加してください」と柔らかく呼びかけている。
- ・清掃活動の報告は、感謝の言葉をメインとすることで、読んだ住民が良い気持ちで清掃の記憶を振り返り、今後の清掃にも前向きになれるような工夫がされている。
- ・今川自治会は、自治会単位で電子回覧板に取り組んでおり、通数が多いため月 5,000 通まで出せる有料版（5,500 円/月）を活用している。
- ・（若い世代の自治会活動参加にアプローチするには）まず声をかけることが重要。若い人が活躍できるような機会を創っていくことが発展につながる。

部会での意見 【全体】

- ・地域でのコミュニケーションの機会を清掃によって持とうとすると、参加者の顔ぶれが同じで、欠席者に対して不満があがりやすいという側面もある。そのため、負担に感じないコミュニケーションの取り方があるとよい。例えば、班の男性陣で持ち寄り式の飲み会をスタートしてみた。
- ・隣近所の飲み会のような、小さなことからスタートして始めることがよい。
- ・行政で計画が決められても、役員だけではできないと歯がゆく感じられる場面も多い。地域では理解や意識の差が大きいため、まちの間に入りて意思疎通を促すファシリテーションができるとよい。そうした間に立つ人がいると、共働きで忙しく地域活動に参加できないという人もマッチングして、皆で取り組んでいけるようになる。学生にもそれに関わってもらえるようにできるとよい。
- ・コミュニケーションのやり方については、いろいろな人の声を聞きまとめていくとよい。

東刈谷自治会へのヒアリング記録

1) ヒアリング日程

日時及び会場：令和6年6月13日（木）10時-12時 東刈谷市民館 2階会議室

対応者：亀田自治会長、野々山公民館長、東刈谷商店街協同組合代表伊藤理事

参加者（敬称略）：【まちコ】小森、桑畠、鈴木小枝、鈴木勉（4名）

※5/25 まちづくりステップアップ講座「ヒアリング、インタビュー技術を学ぶ」受講者

【世話人】大野、【市民協働課】前川・内藤、【ボランタリーネイバーズ】三島

2) ヒアリング結果は、以下「テーマ1～3」のとおり。

テーマ

1

防災イベントで、助け合えるつながりをつくる

東刈谷地区は大きな津波が来る地域ではないため、災害に備える意識が浸透しない側面があります。しかし、安全とも言い切れない…。そこで取り組んだのは、多くの住民が集まるくお祭り型の防災イベント（=秋の防災イベント・ワイワイフェスタ）>と、小回りが利く共助の仕組みく小さな組織で避難行動要支援者を助ける体制づくり>でした。

地域における新たな取り組みは、負担が増えるのは…と躊躇されることがありますが、相手の状況に配慮した声かけ、無理のない運営、楽しさと交流の重視等により、中学生、企業、商店街等、多様な人々・組織が連携した、防災視点での地域づくりが進んできています。

東刈谷地区
基本情報

旧野田地区の分割に伴い、H27年に東刈谷地区として誕生。新興住宅地で子育て世帯も多い。世帯数約5,000世帯で、自治会加入率は68%（R6.4.1時点）。

ポイント1

地域特性を考慮した防災活動を考える

東刈谷地区の特性は、高層マンションも多い新興住宅地であること。そのことから、「子育て世代が多い」「公園が整備されている」「引っ越ししてきた人の間に自治会が浸透していない」「近所づきあいが希薄である」といった状況があります。こうした地域特性を踏まえて、従来型の防災訓練ではなく、野田公園を会場にした「お祭り型の防災イベント」を行うことにしました。



東刈谷自主防災会がR5年に実施した「避難所・防災に関するアンケート」では…

災害時は、「避難所にとりあえず行く」が80%、「避難所は誰が運営しているのかを知らない」が88.6%と、自分たちで避難所を運営するという自覚はまだ低い状況です。

「自分＆自分たちで、自分のまちをよくしていく」自律性・独創性・共助力を育む機会として、防災イベントは重要な意味を持つものと考えています。

ポイント2

五感が満足し、人が集まるお祭り型のイベントに

災害時に助け合える関係づくりの一歩は、住民同士のコミュニケーションから。でも、防災訓練だけでは人はな

なかなか集まりません。野田公園で盆踊りに大勢集まっているのを見て、なぜお祭りには人が集まるのか考えてみました。楽しくて笑顔になれるところに人は集まる。そのために必要なのは、五感（＝「目で見て」「耳で聞いて」「何かに触り」「においを嗅いだり」「美味しいものを味わったり」）が満足すること。お祭りには、こうしたものが揃っているのです。

そこで、歌や踊りを披露する「ステージイベント」、美味しいものが食べられる「商店街・屋台・キッチンカー」、防災を体験型で学べる「自主防災訓練」のブースを組み合わせた、一大イベントを行うことにしました。

＼ポイント3／ コミュニケーションが生まれる運営を工夫する

集まった人たちが触れ合い、顔見知りになる流れができるよう、ステージではキッズダンスから、チアリーディング、演歌ショー等、多世代交流ができる演目を企画しました。ステージ外では「高齢者と幼児子供の交流会」も行われています。

また、地区に東刈谷商店街があるという地の利を活かし、商店街も出店すると共に、新聞折込での広報にも協力してくれています。このことで、自治会に加入していない世帯の子どもにもフェスタのことが伝わり、来場しますが、大歓迎。そうした人たちが来てくれたら、自治会加入を呼びかける機会にもできればよい、と考えています。

防災イベントの運営には、多くのスタッフが関わっていますが、過大な負担がかからないよう時間による交代制にしています。1時間ごとに持ち場を変える等の配置をし、スタッフをする中で色々な人と知り合いになれるよう工夫しています。

＼ポイント4／ 体験し、楽しみながらスキルが身につく自主防災訓練

自主防災訓練は、お祭りで風船釣りを楽しむように、「災害時の簡易トイレの組み立てを体験し、うまくいったらほめられて嬉しい、楽しい」といった流れで、体験しながら、楽しみながら、スキルアップをする形を目指しました。

14のブースが設置され、自主防災会による「かまどベンチの組立法」、赤十字奉仕団による「幼児安全法（AED・心肺蘇生）」「車椅子の操作法」等、参加者同士が触れ合い、体験しながら、スキルが身につく内容になっています。簡易トイレの組み立ては、先着50人に啓発品を用意する等、各ブースに人を呼び込む工夫もしています。

自主防災訓練ブースの例

防災クイズラリー（朝日中学生ボランティア）
保存食の紹介（市川商事（株））
在宅避難ローリングストック活用法
(婦人OBチアーズ)
簡易トイレの組立法（沖野2組自主防災会）

＼ポイント5／ ウィンウィンで協力を呼びかける

様々な団体の協力は、回を重ねる中で1つ1つ増やしていきました。企業のブース出展も、「防災のために、会社ではどんなことをしていますか？」という話から始めて、「会社ではローリングストックを行っている」ということであれば、「それはいいことですね。“こんな取り組みをしているんですよ”、とPRに来てくださいよ」とお話します。企業のPRの場になり、且つ、来場者が体験できるプログラムもセットにして出展してもらえば、自治会もイベントを盛り上げることができ、来場者も楽しみが増えることになります。

昨年より協力いただいている刈谷警察署からも今年は警察署側から演目の相談があり、「ステージで警備犬による犯人の制圧等の演目をしようか」と検討中です。相手の方がPRしたいことがあればそれを活かすようにします。

ポイント6／小回りの利く組織＋若い力で、共助力を高める

災害が起きた時、縦割りで大きな組織を作っていても、役員が現地にたどり着けないと機能しない可能性があります。そこで、小回りの利く組織にしようと、自主防災会を12分会に分け、各々に会長（昨年度の組長等）、副会長（今年度の組長）、民生委員を配置した運営組織図を再編しました。各分会において、高齢者や障害者等の避難行動要支援者（避難支援等関係者に情報提供することに同意を得られた人数をカウント）は、15人～50人程度です。民生委員との連携を強化し、共助により有事の際一人の負傷者も出さないことを目指しています。今年度は、新組長と民生委員がテーブルごとに集まり、避難所運営ゲーム等をする顔合わせを実施しました。

さらには、先述の防災イベントを実施するに当たり、地元中学校の評議員会で協力を呼びかけました。中学生は、災害時に安否確認の大きな戦力になります。中学生にも企画から参画してもらうことで、「自分の意思で参加し、防災について自分の頭で考える」機会にもなると考え、企画運営部員5名、ボランティア部員20名を募集します。先生方もぜひやりたいとおっしゃってくれました。こうした経験が、将来まちを支えてくれる子どもたちを育み、また共助力を向上させることにもつながることでしょう。

自治会で新しい取り組みを立ち上げる時のヒント

1 データを使って必要性を伝える

各エリアごとに〇〇人、全部で390人を要支援者がいる、といった伝え方で、その場で分会の再編成について賛同を得ました。

2 自分がやらなくちゃという不安を取り除く

新しいことを始める→役員が頑張らなければ、という不安感に陥らないよう、別の協力者を少しずつ増やし、そのことを伝える

3 みんなで決めて納得してもらう

自分の中に解決策があっても、自分で決めるのではなく「このように困っているが、どうしたらよいと思うか」と問いかけるように心がけます

（自分が理解し、納得した上で決まることなら不満にならない）

細かいところまで気が届き、不安を感じやすい役員もいます。そうした人には不安にならないよう、早めに話をしておきます。

4 慎重な人には早めに情報伝達する

※「令和6年度刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会 まちづくりん部会」にて事例の共有をしています。同部会で出た意見を各テーマの最後に記載しています。

部会での意見【テーマ1】

- ・刈谷西部地区では自主防災会による訓練を行い、班長が行う安否確認の訓練は参加率が6割まであがった。毎年繰り返していくことで、約10年後にはほとんどの世帯に訓練経験者がいる形になる。
- ・元刈谷地区の元町防災会では、地震発生時に火事を防ぐことができるよう訓練を実施している。子どもを対象とする遊びも用意したところ、自治会に加入していない人も含めて多くの参加があった。ただし、イベントを加えた防災訓練は、運営側の負担もあり継続が難しい面もある。
- ・自主防災会の運営は半分が女性となるのが望ましい。こうしたルールを設けて表に出すと、女性が増えるきっかけになると思う。

会計業務を整理する、事務員を雇用する

自治会では年間で大きな金額が動きますが、それを管理する役員は2年、あるいは1年で交代する人もいます。決算を正確に行うために、また、**担当者の交代にかかわらず確実に会計業務ができる仕組みをつくる**ことが重要です。東刈谷自治会では、専門家の指導を得て、会計業務の整理を図り、また2か月に一度会計監査を行うことで、信頼できる会計業務を行う体制を作っています。

また、自治会で事務員を雇用し、市民館に配置することで、様々な住民の問合せや相談に応じると共に、書類作成等の事務を通して自治会役員の負担軽減に貢献しています。

ポイント1 / 「引継ぎ書」「収支決算事務業務要領」で、流れを明確に

「引継ぎ書」では、前任者からの引継ぎ時に確認すべき事項、定期監査、決算報告、新役員への引継ぎ等、1年間の流れが整理・記載されています。また、「収支決算事務業務要領」では、パソコンでの費目管理業務、収入・支出調書の番号振り等の業務について、簡潔且つ具体的にまとめられ、正確な会計業務に役立っています。

〈収支決算事務業務要領の項目〉

1	予算書作成	5	金銭出納帳管理
2	決算書作成	6	科目別金銭出納帳管理
3	費目管理	7	決算書管理
4	収支調書作成	8	会計監査

差異が出た時に解明できる管理に

会計業務の鍵になるのは、差異が生じた時に解明し修正できること。そのため費目管理を選択式で抜けが出ないような入力設定にしたり、調書1枚ごとに1枚の領収書として番号を振ったりと、ルール遵守を徹底しています。

ポイント2 / 専門家の指導と定期監査で、いつでも正確な会計に

会計整理にあたっては、**地区内にお住まいの税理士さんに声を掛け、指導を受けました**。現在もその税理士事務所に監査を委託しています。特に、費目設定・管理は専門家の指導を仰いだことでルールが明確になり、予算に沿って支出を管理することが定着しました。2か月に1回2時間ほどの定期監査があり、常時、対外的に説明できる会計業務が行えるようになっています。

自治会業務効率化支援事業補助金 URL <https://www.city.kariya.lg.jp/kurashi/shiminkyodo/1004076/1017623.html>

刈谷市ではR6年度から、下記の取り組みに補助金を交付する仕組みを作っています。本事例で紹介したような業務効率化にお役立てください。

- デジタル推進事業（自治会ホームページ作成等）
- 会計事務支援事業（会計監査の外部委託等）
- 業務効率化事業（事務員雇用費等）

ポイント3 / 事務員雇用で、住民・役員双方へのメリットが生まれる

事務員が平日9時～12時まで市民館に常駐することで、市民館の予約・使用、問合せ相談等、住民の利便性が増します。自治会加入手続きも担当しており、同時に、自治会加入率が7割あると、平日午前中雇用する費用が貰えると算段しています。事務員は、書類作成・管理の事務も担っており、自治会役員の負担を軽

減しているほか、役員が交代しても運営業務や1年の流れが頭に入っているため、心強い助言役にもなっています。

部会での意見【テーマ2】

- ・マニュアルや記録がしっかりとできていて、資料も整理されているため、業務がやりやすそうだ。自治会長の力であると同時に、事務員活用の成果でもある。
- ・負担を理由に、自治会役員を断る人も多いため、事務員雇用でカバーするのはよい方法である。
- ・東刈谷自治会は規模が大きいため、自治会費により事務員が雇用できた。令和6年度に、自治会業務効率化支援事業補助金ができ、雇用に使えることとなったため、刈谷西部自治会もこれを活用し、週1回勤務する事務員を雇い、ホームページ運用等を行っている。
- ・廃品回収で得た資金で、事務員を雇用している自治会もある。工夫してそうした体制を作れるとよい。

テーマ
3

地域課題（要望）情報提供・改善活動のフローを整理

側溝の改修、横断歩道の白線、防犯カメラの不備等について、個人がバラバラに市に要望しても、対応がスムーズにいかないことが多いものです。

東刈谷地区では、地域課題（要望）の情報提供・改善活動について、班内で調整・合意して、要望書を作り、また、要望への市の回答について地区内に報告をするという一連の流れを整理しました。特に、側溝についての要望では、対応の優先順位を数値化したり、要望に関わる住民への説明や自治会長・組長が確認する事項について、わかりやすい写真付き資料を作ったりと、みんなが納得した上で地区の意見として要望できる工夫をしています。

ポイント1 / 地区の課題として要望できるよう、業務フロー図をつくる

地域課題（要望）の情報提供・改善活動について、13の段階に分け、一連の流れとすべきことが一目で分かるよう、担当者や作業内容を含めた1枚のフロー図を作っています。このことにより、地域課題を地区の意見として要望書にまとめ、市担当部署に届ける方法が定着するようになってきています。

1	問題提起	8	要望書提出
2	班内調整合意	9	管理No.入力
3	要望書作成	10	結果回答
4	要望内容検討	11	結果情報入力
5	要望内容承認	12	報告資料作成
6	市議への説明	13	結果回答報告
7	情報管理		

要望した状況・結果が確認できる！

改善実施結果は、地区委員会※及び、組・班内・提案者に報告される仕組みとなっており、改善提案を自治会のウェブサイトでも見られるので、要望の進捗状況や、地区で要望することのメリットを実感できます。

※地区委員会（役員、組長が集まる会議）：毎月1回土曜18時～19時半

メンバー全員が出席できるよう、現役世代の仕事終わりの時間から間に合うように設定しています。

＼ポイント2／ 優先順位と評価点の考え方を設定する

通学路・学区内の危険箇所改善要望は、毎年実施していましたが、2021年10月に登校中の小学生がケガを負った交通事故を機に、再度、危険箇所調査を行い、「通学路の安全対策要望書」を市へ提出しました。その際、多くの対策箇所をどの順番で対応してほしいと要望するか、地区内で優先順位付けの考え方が必要となりました。地区として住民の合意を得るために、住民が納得できるような考え方であることが必要と考え、市担当部署の助言を得て、「通学路の側溝等安全対策の優先順位と評価点の考え方」を設定しました。

優先度Ⅰ	通学路の不安全箇所（側溝蓋なし、蓋破損、段差箇所など）対策
優先度Ⅱ	老朽化による排水機能不良箇所（側溝割れ、傾き、陥没など）対策
優先度Ⅲ	景観破壊箇所（側溝蓋、グレーチング上に私物設置など）対策

各項目について0～10点で評価し、合計点をつける → 優先順位づけが一目瞭然に！

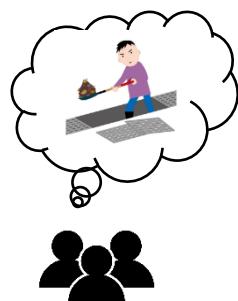
例えば、側溝入替えについての「通学路指定の状況」という項目では、10点=全体が通学路、7点=半分以上、4点=半分以下、0点=支障なしといったように指標を設け、上記の優先度の中で評価点の合計点にて年度計画の優先順位をつけます。

さらに、それらの進捗管理の一覧表もあり、各項目の改善がいつ行われた（る）かを確認することもできます。

＼ポイント3／ ビジュアルに訴える説明資料で住民の同意を作りやすくする

側溝入替え工事の要望書を出す際には、側溝工事区域の道路に面した全居住宅の住民の同意を得なければいけません。また、通学路の安全確保のために電柱が民地側に寄ること等への了承が必要になる場合もあります。

そこで、東刈谷地区では、具体的な写真付きで住民に説明しながら、同意の確認印を入れられるシートを作成。これにより、住民は入替え後にどんなことが起こるかを理解した上で、意志が示せるようになります。また、このような資料があることで、班内の調整・合意も進みやすくなっています。



部会での意見【テーマ3】

・班や組で解決できないことがあれば自治会へ、自治会でできないことがあれば市へ伝えて解決していくのが自治の力である。こうした仕組みの中で物事が解決できることがわかれば自治会に入ることが必要だと理解できる。それがわからないから行政に連絡してしまう。問題解決の仕組みを周知しなければならない。

部会での意見 【全体】

- ・自治会の活動を面白くする取り組みができるとよい。
- ・自治会の活動に女性、中高生が加わることをルール化できるとよい。大人の意識を変える力を持つ上、会議のあり方も変わる。従来とは別の活動が生まれる可能性もある。
- ・自治会の成り立ちは異なるが、組織そのものを変えていくことに早い段階で手を打つ必要がある。
- ・全自治会のヒアリングをまちこが行い情報整理する活動を通して、成功事例や資料等を自治会に伝えられるのではないか。また、自治会の考えを大事にしつつ、必要に応じてサポートを提案し、新たな運営をお手伝いできるとよい。
- ・中高生等、新たなメンバーが加わるには、「仕組みにする」ことが重要。自治会から「参加賞」を渡して評価される等の本人のメリットを示したり、当日の手伝いだけでなく、組織の運営に携わるとやる気も出てくる。
- ・防災訓練に参加するとポイントがつく等のしきけがあるとよい。しきけについても若い人の意見を聞いてみるとよい。